

## 集落営農組織・農作業受託組織との「本気」で語ろう会 会議録

団体名	集落営農組織・農作業受託組織
日 時	令和5年12月20日（水）午後5時00分～午後7時00分
場 所	鹿屋市役所 議会棟2階 第1委員会室
参加者	集落営農組織・農作業受託組織 8名
	市長、農林商工部長、畜産振興監、政策推進課長、農政課長、農地整備課長、農業委員会事務局長、農政課職員、政策推進課職員
<b>意見交換</b>	
1 組織の現状と課題	
2 鹿屋市の農業の現状	
<b>【主な意見】</b> （○：参加者 ●：市）	
1 組織の現状と課題	
○高齢化等によりだいぶ土地が荒れ地化してきている。人も少なくなってきたところが問題だと感じている。	
○組合員や地域の方の水稲作業、耕うん、田植え、収穫、肥料散布、除草剤、甘藷の掘り取り、マルチ張りを行っている。甘藷については病気により減っている。飼料作物については全作業行っている。	
荒れ地解消について、手遅れになってからの相談が多い。これから高齢化等により荒れ地が増えると考えている。	
湿田が多く、機械が水田にはまり大変。どうしても作業ができない場所もある。	
○地域の高齢化の中で水田を守っていくことが趣旨。	
高齢化の進む中、水田を守っていくために集落営農組織などは大事な組織であると考えてるが、後継者がいない。	
○現在は離農者が増えており、個人との利用権設定が増えて、作業面積が相当減ってきている状況。	
地区の課題は排水が悪い田が多い。また、組合で受けるには忙しい時期と重なるため、オペレーターがおらず受けられない状況。	
山間は出水があり、水田が壊れている。市内を調査し、排水対策事業を実施してほしいと考えている。トラクターはもちろん田植え機でもはまってしまう場合がある。	
○地形的に山に囲まれ平たんではないため、今でも湿田が多い。WCSを作っても収穫できず、機械もはまってしまう。若い方々は自分の経営が忙しく、組合に参加できない状況。できる限りカバーしあっている状況。	
○組織継続を考えたときに、交付金頼みではいけないと考え、8年前からWCSの種子販売を始め、受託作業代を出す方法にシフトした。	
主で作業する人が50代、60代であるため、20年、30年後にどうなっているか心配なところ。就農には初期投資がかかるため、新規就農者がいない状況が見受けられる。後継者を外に出さずどう確保するかが課題。	

## 2 鹿屋市の農業の現状

○農地の利活用は、鹿屋市農業・農村戦略ビジョンの基本方針2の(3)にある「生産力の高い基盤の整備」であると考えている。そこで、鹿屋市の整備率について伺いたい。

→●鹿屋市の耕地面積は約10,000ha、その内2,056haが水田。

水田の整備率は、戦前からのものを併せて73%であるが、狭小農地が非常に多い状況。大区画化しているものが約29%という状況である。

●吾平の整備率は83.5%が整備済み。地区別では鹿屋市の整備率が最も悪い。

●畑については、輝北の曾於南部地区、鹿屋・串良では笠野原畑かん地区で区画整理が進んでいる。鹿屋の南部から吾平地区は、肝属中部地区で基盤整備を行っており、ほ場の整備は進んできているところ。

○湿田が多いとの意見があったが、どのような事業が考えられるか。

→●市内の水田2,000haのうち、湿田がどれくらいあるかは正確に把握していないが、排水対策については、事業がある。鹿屋市内全域が中山間地域であるため、集団面積で5haが下限面積となるが、5haの集団面積があれば事業はある。また、耕作条件事業という用排水事業もあるので導入の検討は十分にできると考える。

●人手不足とのことであるが、体育大生など農業を行っていない人が手伝いに来る場合、指導をしなければならないなど手がかかってしまうのはどうか。

→○土日にまじめに働いてくれる人がいれば、機械操作などを指導することもできる。

○時間は、田植えの時期なら苗運びなど1時間でもよい。

●吾平の400haあまりの田んぼを何人の農家でどのように耕作し、実際のところ水田の耕作者は何人ぐらいいるのか。販売農家はどれ位いるのか。

→○吾平では7ha以上作っている農家が7人ほどいる状況である。

○大区画になると10haぐらいは一人で作業できる。ほ場は50aぐらいが一番作業がしやすい。

○水管理は50aぐらいがちょうど良いと言われている。

○1人で150ha作っている人もいると聞く。ただ水田だけでなく、道路や用排水路などの整備、畔管理が大変である。

○農業・農村戦略ビジョンの中で、農業産出額450億円を500億円にとの話があったが、プラス50億円はどのように達成するのか。

→●450億円の7割が畜産。少しでも耕種を上げて、50億円のうち20億円を耕種で賄う考え。その品目のうち一番大きい割合を占めるのがゴボウで設定している。

●鹿屋市の農業産出額は全国で9位であるが、子牛価格が下がっておりこのままでは、20位~30位になる可能性もある。

●畜産ばかりに頼らないよう、耕畜のバランスを考えてピーマンやカット野菜、大根やニンジンなどの加工用の根菜類などにも力を入れ、稼ぐ力をつけていく。

●鹿屋の耕作地の内、約6割が飼料作物を作付けしている。飼料作物は農業産出額に入らない。

- トラクターの大型特殊免許取得助成として、市内の自動車学校でも免許取得できるよう助成があったが、現在は無いのか。
- 現在は無い。細山田に教習所があった時は、大型特殊免許・けん引免許であっても農耕限定だった。自動車学校では、限定の無い普通の免許であったため、個人の免許取得に助成を行うかとの議論があったことからなくなったもの。
  
- 農家が潤うと、街が元気になる。
- 農業女子ということで、県外から女性が来てその方たちが結婚し定着している。
- 技能実習生は真面目に働く。そういうところにテコ入れしてほしい。
- 雇用は、そばや麦を作ったり、水田の空き対策で後作に水田ゴボウやさといもを作るなどやり方はあると思う。稼働率が悪いから採算に合わなくなってくる。
- 日本の農作物は、大隅半島で作るというくらい、ダムも3つあるなど有望な土地である。それを生かさなければいけない。
- 水田の維持は、WCSの代かき田植え収穫などすべてすると4万円からかかってくる。水利費や航空防除等の経費もかかる。
- 昔は水田はとにかく奪い合いだった。今は、タダでももらう人がいない場合もある。
- 個人農家の後継者がいない状況。品目のバリエーションもなくなってきている。
- 山間地区の鳥獣害が多い。田んぼにも来るようになった。昔は出なかった。
- 防護柵も超えて入ってくる。休猟区があればそこに逃げる。
- 山間の場所は、先に刈り取りしてほしいと要望が多い。イノシシが入ると米に匂いが付く。
- 飼料用米を作っているが、飼料用米は国の基準では単収で計算する。467kgが基準となっているが、去年は、地域でクリアしたが、今年是不作で、8万円もらえない場合が出てくる。その上、交付金が下がってしまえば赤字になってくる。面積を増やしたいがそのような問題も出てくる。
- 高齢化などで畔払いなどの管理も大変になってきており、個人で受けている人の中には、畔払いまで請け負う人もいる。そのような対応も大事になってきている。
- 定年退職した方々に刈払いを依頼し、アルバイトとして対応している。自分達では、畔払いにまで手が回らない。

(市長)

- ・農業従事者が減少する中でどのように農地を守り、食料を増産していくということは大きな課題である。
- ・今は兼業農家も減少しており、兼業農家や半農半Xも含めて、多様な担い手を見つけていく必要がある。
- ・これからは農作業の受委託組織、農業法人が農地を守る生産体制のメインであり、地域の農業を守る大きな担い手だと考えている。
- ・将来、何人いれば日本の耕作地を耕作することができるのだろうか。もう少し大きな話をしていかなければならない。
- ・ある程度の大区画化や排水対策などの条件整備・耕作不利地の解消が大事である。
- ・耕作放棄地についても、市と話をして皆さんの力で解消できればと考えている。

- 食料基本計画の中で、サービス事業体の育成が位置付けられている。皆さんの様な受託組織のほか、農機具販売事業者も受託作業を行っている。今後このようなところがのびてくると考える。
- 集落営農組織や農作業受託組織は大事な担い手であると認識している。これを持続だけでなく発展させられるように、我々も勉強していきたい。